

令和7年度第1回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 令和7年7月29日（火）10：15～12：00
- 2 場 所 長浜市役所5階 5-A会議室
- 3 出席者 ○委員（10人）
遠藤委員長、横山副委員長、轟委員、若岡委員、市川委員、
杉江委員、藤田委員、平井委員、田中委員、川崎委員
○事務局（7人）
内藤総務部長、清水財政課長
財政課財産活用政策室
中村室長、松井係長、的場主査、本田主査
○長寿推進課（3人）
河瀬課長、星野課長代理、堤内係長
○政策デザイン課（3人）
山崎係長、西村主幹、五十嵐主査
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1人
- 6 開 会
・内藤総務部長から挨拶
・定足数の確認
・委員紹介
・資料の確認
・会議の公開についての確認

7 議 題

（1）正副委員長の互選について

委員長に遠藤委員、副委員長に横山委員を選出

（2）長浜市公共施設等総合管理計画の概要と進行管理（前年度実績）について

（説明：財産活用政策室）

- ・資料3、資料4-1、資料4-2、資料5、資料6に基づき説明

■質疑応答・意見交換

（委員）

資料3にある公共建築物基本指針は、視点として大きく3つあると考える。それは、①複合化、②公民連携、③広域連携である。現在、総務省は新たな広域連携として、近隣自治体と協力して複数の自治体で利用できる公共施設を、各市町が分担して整備する形がある。利用率が上がらないと収益がでないので、各市同士で連携協定を結び、相互利用により稼働率を上げ収益を上げていくという発想が大事である。①、②、③を同時に達成する、同時に考えなければいけない時代となっている。公共施設をアウトソーシングにより管理することも、

近隣市町が単独で発注するのではなく、包括的、広域連携的に複数の自治体で一括発注する時代となってきた。今後は、このような視点で取り組んでいくべきである。

(事務局)

広域連携については国としても推奨されていて、我々も把握している。広域連携化について、資料の概要版には記載はないが、本編には近隣自治体との相互利用の連携や市域を超えた広域的な利用も視野に入れた柔軟な配置を検討すると記載している。本市では、ごみ処理施設や消防署、水道、下水道施設等を広域連携で運営している。他の公共施設についても、そのような視点を持って引き続き検討していきたい。

(委員)

資料3について、公共施設を単純更新した場合と長寿命化を図った場合を想定して比較されているが、人口が減少しているなかでそのまま建替え更新することでの想定は、費用が大きく不足することを過大に表現されているように勘ぐる。

(事務局)

公共施設等総合管理計画では、前提として人口減少等を加味せず、今ある施設を単純更新した場合という条件のもと、今後30年間に費用負担を推計している。仮定としての前提条件を作らないと比較する推計もできないので、このようにしている。

(委員)

気になった点が3点ある。

- ①総量縮減、コスト削減の説明であったが、同時に新規に必要な施設については整備や更新をしていると思うが、その双方に触れるのが大切である。あまり縮減や削減等の表現ばかりでない方がよい。
- ②縮減や集約によって減少した施設の機能が代替できているのか、あわせて提示してもらいたい。
- ③公共施設等総合管理計画の位置づけ、計画の上位計画、下位計画等を示して、関連の計画との相互関係をわかるようにしていただきたい。

(事務局)

公共施設の総量縮減という方針を掲げつつも、必要な機能は残していくという視点で進めているので、そのような説明も丁寧にしていきたい。例えば、ながはま文化福祉プラザについては、まちづくりセンターや図書館等を集約複合化して整備した。上位計画の総合計画や関連計画である個別施設計画もあるので、丁寧に説明できるようにしていきたい。

(3) 長浜市高齢者福祉施設個別施設計画の策定について(着手)

(説明:長寿推進課)

- ・資料7に基づき説明

■質疑応答・意見交換

(委員長)

本委員会と高齢者福祉審議会を経て来年3月に計画の中間報告をするということか。

(長寿推進課)

今年度は庁内で検討を行い、当委員会、高齢者福祉審議会、市議会へ状況報告をしつつ、

中間報告まで進めていきたい。その後、パブリックコメントを経て、来年秋には策定としていきたい。

(委員)

社会福祉協議会が指定管理者として運営している施設で、建物の不具合がたくさん出てきている。また、利用者が増えていて、利用者の従来の利用の仕方の転換期にもきている。ニーズに合わせた施設の見直しをする中で、我々はソフト面の方に目がいくため、地域の繋がりが途絶え、高齢者の方の安心が失われるのではと危惧する。この計画はハード面の話しではあるが、両方の面での検討を進めてほしい。

(長寿推進課)

福祉ステーションの在り方の検討では、現在、利用されている方が、引き続ききちんとサービスを受けられるように検討をしていかなければならない。民間に任せる部分は任せるということではあるが、公が担うところを考えながら進めていきたいので、社会福祉協議会には今後の協議等への協力をお願いしたい。

(委員)

他の施設類型と違い、市の人口が減少するが利用者は増えていく。民間ではサービスを提供する職員が不足し、施設の受入れ想定数まで受け入れられないと聞いている。集約化するというのは理解できるので、社会福祉協議会や民間事業者の担い手や現場の動向を踏まえた個別施設計画の検討を進めてほしい。

(長寿推進課)

今の状況は充足していると考えているが、人手不足は理解している。今後、高齢化が進んでいき令和 32 年にピークを迎えるので、将来見通しを立てながら慎重に進めていく。

(委員)

元気な高齢者が集える場所としてソフト面での検討を含めたハード面での整備計画をできるかぎり検討してほしい。

(委員)

地域包括の考え方で集約すると、建物を大型化すると維持管理が大変である。地域毎に小規模な施設を点在させ、かつ、今後増えていく空き家を活用した施設整備ができると空き家の課題の解決もできてよいと考える。

(長寿推進課)

面白い意見であり、住み慣れたところでサービスを受けられ、利用者の安心を得られると思うので、検討していきたい。

(委員)

人手不足について、AI でマニュアル化する技術が発展している。経験による熟練のノウハウをマニュアル化により、新しい人材へ引継ぐやり方も変わってきているので、一定把握しておいた方がよいと考える。

(委員長)

今後の個別施設計画の策定を進めるにあたり、施設の老朽化状況や施設稼働率、地域の高齢化率等のデータ情報が見える形でまとめるとよい。

(4) 長浜市総合計画の策定に向けて

(説明：政策デザイン課 山崎係長、五十嵐主査)

・資料8、資料9に基づき説明

(委員)

資料8について、キーワードとなる教育文化に歴史を追加、歴史自然観光に歴史を削除し景観を追加した方がテーマの切り分けとしてよい。

(委員)

小谷城戦国ミュージアムの整備は、歴史観光に力を入れている表れであるが、公共施設マネジメントの考え方との整合性をどう考えているのか。

(事務局)

小谷城戦国ミュージアムの整備にあたっては、公共施設等総合管理計画の視点のもとに進めている。小谷城戦国歴史資料館や文化保護センターを戦国ガイドステーションのところにひとつ集約して魅力的な建物を整備するという計画となっている。

(委員)

目指すテーマが7つある。すべてのテーマに注力するのか、もしくは、特定のテーマに注力するという考えはあるのか。

(政策デザイン課)

前提として、皆さんと創りあげていくもので、今は長浜市の未来図という名のたたき台である。他市では特定のテーマに絞った計画もあるが、7つのテーマをそれぞれに磨き上げつつ、魅力を関連させさらに輝くという意味を込め、“7つの輝き”が織りなすまちという案になっている。

(委員)

選択と集中を進めるうえで、選択したものに交通やデジタル等のネットワークがアクセスできることが大事であるので、長浜市地域公共交通会議への展開も是非検討してほしい。

(委員長)

本委員会では伝えられなくても、まだ長浜市総合計画への意見は発信できるので、会議後であっても市の担当者へ提出してほしい。

(委員長)

それでは、時間となりましたので、本日の議事を終了させていただきます。

8 閉 会